

3/31 坂総合病院で全職員集会が行われました

はじめに全日本民医連藤末会長のビデオレター視聴、今田院長挨拶の後、各部門から報告。

＜救急部：郷古医師＞ 震災当日1番多かったのは低体温の患者さん。ガソリン不足で救急車が足となった。12日間で通常の約4倍の救急車の搬入。救急患者さんも通常の数倍。災害直後より迅速にトリアージ体制をしき、災害医療に取り組んだ。過去5回の災害訓練の経験が生かされた。



＜病棟看護師＞ 情報がない中で、被害にあった患者さんから話を聞きながら、大変な状況を感じた。全国からの支援、嬉しかった。

＜外来看護師＞ 「お母さん行かないで」と泣かれながらの出勤。全国からの支援、民医連の病院に勤務してよかった。

＜保育所＞ 保育所は昼寝後に地震。子どもたちも無事。子どもたちも何人かは病院に泊まった。

＜生理検査室＞ 帰宅困難な患者さんたちに生理検査室を提供。しかし、入りきれずに寒い廊下にも。19日まで機所として機能していた。あとでお礼を言いに来てくれた患者さんもいた。

＜避難所訪問：矢崎医師＞ 多賀城地区2729人、塩釜573人の診察。やけどをおっているのに避難所で我慢している患者さん。津波で流された若者、2才の子どもを探してまわっているお母さんも。坂病院が地域で信頼されていることを感じた。喜ばれたのは足湯。二ヶ月の赤ちゃんの沐浴も行った。今後は長期的援助が必要。全国からの支援も素晴らしかった。寄せ集めのチームなのにチームワーク最高！

＜精神科：千葉医師＞ このような状況でさまざまな変化があるのは当たり前。資料も参考にまわりの人のサポートを。仲間との触れ合いは大事。なるべく温かい食事。睡眠も大事。

＜事務局長＞ 今後は日常診療をしっかりと行いながら、地域の復興を。地域訪問を行う。全職員で地域に出る。避難所まわりも行っていく。

最後は、みんなの思いを文章にしたメッセージが紹介されたとのことです。



メディアも坂総合病院の奮闘を評価

宮城：坂総合病院は、震災地の医療を支える拠点病院として、地元メディアの東北放送をはじめ「バンキシャ!」「ガイアの夜明け」等でもその奮闘ぶりが評価されています。現地は依然厳しい状況にありますが、ひきつづき様々な形で支援していきましょう。

